

新学期が始まった！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

すべての受験が終わりました。毎年繰り返されることなのに興奮冷めやらず、新学期は気合が入りすぎて、受験がまだずっと先の生徒にはウザがられる先生も中にはいます。

受験の時だけ盛り上がる！というのは人として当然のことかもしれませんが、子供の学齢期を成長と準備の時期と考えるとそれだけではいけない気がします。節目というか、大事なポイントというのは、必ずあります。春の時期は学年が切り替わったり、進学したりする時期です。どんな生徒でも、将来について考えることが多いものです。この一歩踏み出す時、緊張感があるときに「問題提起」することが大切だと思います。子供の1年は、大人の10年に相当するとよく言います。学年が一つ上がるという事は子供にとってはかなり大きいことなのです。いよいよ受験学年という生徒はもちろん、どの学年の子でも一年上がるという事の意味の大きさを感じているはずです。もし、子供を将来に向けて勉強に向かわせたいのなら、このチャンスを逃す手はありません。進学や将来について話し合う大切な時期と考えて、準備を始めるのが良いと思います。

中学生は4月の初めに「合同特訓」を行います。今年は4月7日。新学期早々になりますが、部活動がはじまってしまうと生徒は考える暇もなく多忙な毎日に振り回されることになるため、この時期を逃すとメッセージが届かないというのが、塾の考えです。

教育の大転換期といわれている中で、課題は山積みです。中学一年や高校一年生がこれから直面する受験の実際を考えると、指導する側も安閑としてはられない状況です。

グローバル化の波の中で、社会が要求してくる英語力については、当然のようにすべての受験に関係してきています。小1から耳を鍛える「めいけいキッズ」の「eポップ」や小学生英語のレベルアップもその影響です。オンラインなどの活用も含めて小6で英検3級をとる生徒もいずれ増えてくると思います。高校受験への対応から中学生のコースでは、「アクティブスタディー」の導入と「オンライン」の必修化も始まります。上位大学受験の資格にもなる英検2級、準1級を目指す「英検TC」のさらなる充実など塾の方も準備を進めています。小学校での英語導入に伴い英語自体のレベルアップが予想されます。今までは特進クラスしかやらなかった高校レベルの文法も中学において来る予定です。

英語のみならず、他の教科についても付け焼餅的な知識習得では対応できない本当の実力が問われるはずですが、数学的な思考力や読書量に裏打ちされた表現力、読み取る力など…ただがむしゃらに先取り学習をするというよりは、本質的に「考えること」「問題解決すること」「学びとること」などに喜びを覚える「育て方」が要求されていると思います。

受験の時だけ「頑張っ」て何とかやりこなすというよりは段階を踏んで少しずつ成長させていくしかない本当の実力が試される時代に入るといえる事だと思います。

大転換期には必ず起こる親の経験則では測れない時代の到来がはじまったという事でしょう。目の前の娯楽だけで、面白おかしく暮らせる時代はもうとっくに終わっているなかでいろいろな難問を楽しんでクリアしていく力をつけること。そのための最初の段階として成長の節目をきちんと自覚させ、次の課題を見せることが大切だと思うのです。

10年以上前に中学生の合同特訓では「秋田国際教養大学」を取り上げましたが、その「衝撃」が今では多くの大学に波及し「現実」になっています。あの時、既に秋田国際教養大学の偏差値は東大に近い状況だったのですが、自分もそんな風に世界に羽ばたきたいと思った生徒たちは、すでに社会に出て働いています。夢に近づけた人もいたかもしれませんが、10年はあつという間のことで、気がつくのがそれでは遅かったという生徒も多かったはずですが、自分を啓発していくべき方向性を、新学期は提起し続けたいと考えています。春期講習、入試報告会や一日勉強会、そして合同特訓など春の行事全体の中で問題提起を行っていきます。良いスタートが切れるよう新学期の緊張を最大限に活かしたいと思っています。